

### 第 31 回風力エネルギー利用シンポジウム開催の主旨

目 的： 我が国にとって石油に代替する新エネルギーの開発は、エネルギーセキュリティーの観点からも国民生活全般に係わる重要な課題です。さらに、地球規模の温暖化ガス排出に起因する環境問題、また開発途上国における電力普及問題も顕在化しています。

その中であって、再生可能エネルギー資源である風力エネルギーは、無尽蔵かつ無公害という特性から、開発を強力に推進していく必要があるといえます。しかし一方で、風力エネルギー利用システムの開発においては、地理的条件により技術的、経済的、社会的、環境的に解決すべき問題点も多く残されているのもまた事実であります。

そこで以上のような観点から、総合的見地より風力エネルギー利用システムのありかたを検討することを目的として、本年もシンポジウムを開催いたします。

経 緯： 1973 年の石油危機によって石油代替エネルギーの開発の必要性が高まったのを契機として、1977 年 11 月に日本風力エネルギー協会が設立されました。

1979 年、協会活動の一環として、風力エネルギー利用の現況を広く社会に周知させることを目的に、科学技術庁の後援のもと、日本風力エネルギー協会および（財）日本科学技術振興財団の主催で、『第 1 回風力エネルギー利用シンポジウム』を開催しました。以後、毎年 1 回シンポジウムを開催しております。本年は第 31 回のシンポジウムになります。

内 容： 2005 年 2 月に京都議定書が発効し、再生可能な風力エネルギーはその経済性と温暖化ガス排出の少ない電源として多くの期待を集めています。欧米を始め中国、インドにおいて陸上ならび洋上にウインドファームなどが建設され、2008 年末に 120GW に達するまで成長しました。我が国でも民間風力発電ディベロッパーや自治体等によるウインドファーム建設が本格化し、設備容量は総計 188 万 kW を超えております。

2005 年度より調査研究は日本特有の風況特性に基づく発電量予測や日本型風力発電ガイドラインの最終の報告書もまとめられました。外洋に面した洋上風力発電の実証研究も開始されました。このように内外の急速な進展を背景に、産官学民の第一線で活躍されている方々を講師に迎え、風力実用化時代にふさわしいトピックスを取り上げて御講演戴きます。我が国の 2010 年の風力発電導入目標が 300 万 kW 達成を目指すとともに共に、2020 年を目標とする小型から大型風力発電、洋上風力発電の促進へ意見交換を図る場でもあります。また第 2 日目は、風力エネルギーの利用と進展に関する学術論文発表を例年通りに行ないます。